

神長館主人字



鶯は初音也 鶯乃耳果結
 遠兼や若乃小聚此千らら
 中ふあくと早と逢ふり新乃声

萱字
 翠香
 竹史

既降や多し阿りさくを豊のち
 まことと又これさきより先極

香庭
 風縁
 帯心

母名柳て新氣をさる旬はうら

満川

多し雨もや風はとく村家此声

泉跡

高より飯厨風の更や福香所

其窓

えりり新や新の春さる傳

田好

流るまけおる新氣一新乃声

明京

隙おれ持もあらさるはより新

三子

新りさるはハ舞一江邊此声

園休

今ぬる石二日かま年とと年か

子交

春もよし伸くまきこの柳うら

松茂

春もよし伸くまきこの柳うら

葉明

振こゆる春や初音のうら新

臨明

明治甲午暮旦

神長館主人書

